

『べらぼう』時代の地口・無駄口・洒落辞典

通人志願者ならご一読。「ありがた山の寒鳥」でゲシヨ?!



【あ行】

上がったりやのかんかん坊主(恋川春町「金々先生栄花夢」1775) 上がったりだ。
 ありがた山の椎の木山椒(恋川春町「参幅対紫曾我」1775) ありがた。(*)
 ありがた山の鳶鳥(恋川春町「金々先生栄花夢」1775) ありがた。*II山から下の語句には特に意味がないが、文脈に即して添えられるものも有馬山。
 有馬山の火の見櫓(恋川春町「参幅対紫曾我」1778) 有る。

委細承知の介(恋川春町「悦鼻肩蝦夷横領」1778) のみ込んだ。

一杯飲みかけ山の寒鳥(恋川春町「辞闘戦新根」1778) 一杯飲もう。

おそろおそろ(恋川春町「高漫奇行脚日記」1773) 恐れ入った。

おつと、有馬の人形筆(山東京伝「奇事申洲話」1789) 有り。軸に人形が入れ込んであり持ち方で出入りする有馬温泉特産の品。

【か行】
 かたじけなすの鴨焼き(恋川春町「吉原大通会」1784) かたじけなII ありがた。

かたじけな飯に田楽だ(山東京伝「心学早染草」1790) かたじけな。

気が有馬山(恋川春町「高漫奇行脚日記」1773) 気がある。

経済には韓非子、呑むには剣菱(恋川春町「鸚鵡返文武二道」1789) 剣菱は当時の代表的銘酒(伊丹産)。

心を澄まし吸い物(恋川春町「万載集著微来歴」1784) 心が澄む。

これはありがた山吹色(唐来参和「莫切自根金生木」1775) ありがた山系。お金をたんまりもらったときなど。

【さ行】
 思案は長崎のてんぼらば(森羅万象「面向不背御年玉」1787) 思案はないか。

しこため山(恋川春町「金々先生栄花夢」1775) しこたま貯める。

しめかけ山の寒鳥(芝全交「当世大通買帳」1781) しめしめ。

しめこのうさぎ(森羅万象「面向不背御年玉」1787) しめた。

【た行】
 鯛の味噌吸に四方のあかを振る舞い(北尾政演II山東京伝「御存知商売物」1782) 酒を飲む、の洒落言葉。

ちよちよらをいう(朋誠堂喜三「亀山人家妖」1787、恋川春町「悦鼻肩蝦夷横領」1788) 口から出まかせの見えすいたお世辞をいう、良い加減な調子の良いことをいう。

てれ坊(恋川春町「高漫奇行脚日記」1773) 決まりが悪い。

天びん棒上へ反る(恋川春町「無益委記」1780前後) ありえない。

とんだ茶釜(恋川春町「辞闘戦新根」1778) 驚いた、あてが外れた。江戸笠森稲荷の水茶屋の娘で美人のおせんを見に行ったところ結婚してそのあと葉罐頭の親爺が座っていたのでびつくりしたこと。

とんと言いぶんなしの皮(恋川春町「参幅対紫曾我」1778) 文句なし。

【な行】
 ならぬ大仏(山東京伝「京伝憂世酔醒」1790) ならない。

飲みかけ山のかんがらす(芝全交「時花吟鸚茶曾我」1780) いっぱい飲もう。

【は行】
 はやく来なこもち(山東京伝「心学早染草」1790) はやく来い。

腹も立った山(余茶時野馬乎人「啞多雁取帳」1780) 腹が立った。

一言も内藤新宿(恋川春町「高漫奇行脚日記」1773) 弁明の余地なし。

放下師の小刀のみこみ印(恋川春町「辞闘戦新根」1778) 合点だ。

【ま行】
 ももくり残念(森羅万象「面向不背御年玉」1787) 桃栗三年。

【や行】
 用はざつと隅田川(朋誠堂喜三「一流万金談」1781) 用事は済んだ。

今回はこれきりドンくくくく。
 (※II恋川春町「参幅対紫曾我」1778)

前號では、萬屋重三郎が親しく付き合った朋誠堂喜三二、恋川春町、山東京伝といった黄表紙作者の音楽趣味を炙り出して御覧に入れました。『べらぼう』萬重栄華乃夢噺(NHK大河ドラマ) にそれが反映されるのを期待しましたが、萬屋が独自の正本(歌詞本の類)を出版した浄瑠璃の富本節を押し出した後が続かねエです。それでもこれから目立つとおぼしき山東京伝なんぞは長唄を本格的に習った人ゆえ期待はまだ萎えませぬ。

上記三人の文章は、音曲好きが関係してのことかどうか、ノリ良しテンポ快調で、とりわけ登場人物の台詞に当たる部分に喰ること度々。ドラマ中でも萬重の口癖「ありがた山の寒鳥」の他、調子の良いフレーズがすてにいくつも出ましたが、あれはドラマの時代(安永〜天明/寛政年間…1700年代後半)に実際に町民の間で流行して頻用された洒落つけのある地口でさア。

三人の黄表紙たるや、そうした類の地口・無駄口や洒落、もじり、掛詞他といった言葉遊びの宝典みてエです。『べらぼう』の脚本家さんは心得てらっしゃる。ほんに感心。わっちはふと存じつき、主に三人の名作黄表紙から抜き出して辞典を作ってみたくなりやした。おまけに、当時の慣用語句で今ではあまり聞き慣れない言葉も少しづつち込んで、つらりと柿の種(※)一読。

【古典邦楽十吋盤のすすめ】宣伝の段

東西々々。掲げたるは江戸時代に人気を博した音楽を中心に、戦後昭和の早い時期に発売されたLPレコード盤(30センチ盤ではなく25センチ盤の時代)を多数紹介した単行本でござりまする。その時代写真ならぬ絵画が使われたジャケットも多くして、江戸時代を偲ばせる情緒のジャケットあまた有馬山。今ではお目にかかりにくくなった日本の風物、衣装、風俗、商売、仕草、文様他と出会うこと珍しからず。各盤を、ジャケット写真+

内容紹介文+演奏者データで御紹介(約700点。約1300頁のカラーページでその多くのジャケットをとくと御覧に入れます)。
 ▼収録ジャンル：長唄、歌舞伎舞台、浄瑠璃(義太夫節・河東節・一中節・荻江節・宮園節・常磐津節・清元節・新内節、端唄、うた沢、小唄、俗曲、都々逸、他多数)。
 ▼定価4800円(税別) ▼総頁：576頁
 ▼寸法：26×13×18.8cm
 ▼著者：岡島豊樹 ▼出版元：カンパニー社
<http://companysha.com/kotenhougaku>

KOTENHOUGAKU TŌINCHIBAN NO SUSUME
 TOYOKI OJAJIMA
 岡島豊樹

古典邦楽 十吋盤のすすめ

長唄、歌舞伎舞台、義太夫節、古曲、常磐津節、清元節、新内節、端唄、うた沢、小唄、俗曲、都々逸、お座敷遊び、雅楽、能、狂言、浄土、尺八、琵琶、前奏、浪曲、お祭、囃子、太鼓、尺八、舞踏、わらべうた、童謡、文部省唱歌

古典邦楽のレコードを集めるとして、集めて、集めての日本の風物、風俗、商売、仕草、文様、音楽、文学、デザインの歴史。最新のレコード集、ここにあり!